

## プリントを利用して読む習慣をつける

短期間に処理して覚えたものは、忘れるのも早いものです。とりわけ、テストのために覚えたものなど、テストが終われば忘れてしまうのが普通です。

漢字などのように、一生使うものの学習は、長期間にわたって、ゆっくりと学習を重ねなければ、決して身にはつきません。だから、石井方式では、“新出漢字”という特別の扱いはしません。

その代わり、できるだけ漢字を読む機会を作って与えます。そのため、普通の先生なら、話ですませるものでも、黒板に書きつけて読ませます。



テストのために覚えた漢字はすぐ忘れてしまう

また、プリントも毎日作って与えます。私は、ほとんど毎日、原紙に二枚は、子供たちに読ませるための教材を作って与えました。それは大変ではありますが、子供たちに“読む”習慣を与えるためにぜひ必要だと思ったからです。

どんな授業でも、分析したら、“聞く”活動が大部分を占めるでしょう。“話す”“読む”学習でさえも、それは一人だけの活動であって、他の子供たちは、それを“聞”いているのです。

だから、国語の学習としては、だれもが“読む”“書く”学習をするような工夫をする必要があると思います。私は、そのために、毎日、プリントを用意し、それを“読み”、それから“書”かせました。

プリントには、多くの漢字が使われていて、だれでもそれを読まないことには、国語の学習が進められないようになっていきます。問題を読んでは、その解答を書き、問題を読んでは解答を書くのです。

では、その一例を下に掲げます。

源五郎鯨を読んで、次の質問に答えなさい。

- 一、源五郎さんは何を持っていましたか。  
(答、不思議な太鼓を持っていました。)
- 二、それはどうして不思議なのですか。

(答、鼻が高くなったり、低くなったりするからです。)

三、 不思議な太鼓で鼻を高くするには、どうするのですか。

(答、大鼓の片方をたたいて、「鼻、鼻、高くなれ。」と言います。)

四、 源五郎さんはどんなことをして、大勢の人に喜ばれましたか。

(答、太鼓をたたいて、大勢の人の鼻を高くしたり低くしたりして喜ばれていました。)

上は、私が、一年生の国語の学習で実際に作ってやらせたものです。一年生でも、こういう問題を、自分で読み、それに応ずる解答を書くことができるのです。